

第 1 回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「『またね』という一言で」

京都府

京都市立御所南小学校 6 年

物河 絵里香

「またね」という一言で

京都市立御所南小学校 六年

物 絵里香

「またね！」

その子は、わたしに向かって笑顔で言ってくれました。そのしゅんかん、わたしはハッとしたと同時に悲しさなんてふつとびました。

わたしが五年生になる春休みのことでした。ずっと仲の良かった友達が、転校することになりました。その子とは、いつも一緒にいたので、転校すると聞いたときはとてもショックでした。その子と同じ気持ちだったらしく、二人でいるといつも「行かんというて」「行きたくない」という話ばかりしていました。

そんな気持ちでむかえた引越しの日。二人とも泣きそうになるのをこらえて「バイバイ」を言い、その子は車に乗りました。ほかに見送りに来ていた子たちは、みんなその子に向かって「元気でね」「バイバイ」と口々に笑顔で話しかけていたのに、わたしはその中に入れないで、一人ポツンと離れたところにいました。そして、ついに車が発する時、その子がわたしに向かって

「またね！」

と言ってくれたのです。

それまでわたしは、（引越したら、もう会えない。だから悲しい。さびしい）と思っていました。そしたらどんどん、いやだな、いやだなんて思って落ちこむ一方でした。でもその子が言ってくれたように、引越したって、また会えるのです。会おうと思えば会えるのです。

「さよなら」するのはとてもさみしいことだけど、また会いたいって思えばきっと会えます。そう思えるようになったのは「またね！」という言葉のおかげです。「またね！」と言うと、お互い前向きになれます。たった三文字の簡単な言葉だけれど、その一言で元氣になれます。

これからわたしは、人と別れなければならぬ時があっても「さよなら」の次に、「またね」という言葉をつけたと思います。そうしたら、別れる悲しさよりも、次に会う楽しみの方が大きくなると思うからです。「またね」という言葉がわたしたちをつなぐ『愛言葉』なのです。